

# 令和2年度 学校安全総合支援事業（学校安全体制の構築）の最終報告

学校名 （ 竹田市立豊岡小学校・竹田市立久住中学校 ）

## 1 学校の情報

### (1) 学校規模

豊岡小学校：学級数4 児童数39人 職員数12人

久住中学校：学級数3 生徒数64人 職員数16人

### (2) 分掌の位置づけ

防災教育モデル実践委員 17名

防災教育コーディネーター及び研主任 豊岡小学校：松井 綾（研究主任兼務）

久住中学校：岩本 考二

### (3) 地域環境

竹田市は、県南西部に位置し、くじゅう連山、阿蘇外輪山、祖母山麓に囲まれ、河川は大野川水系の稲葉川と玉来川の支流を有している。豊岡小学校は、稲葉川沿いにあり、過去3回豪雨洪水による災害を経験している。平成22年稲葉川治水ダムの完成によって、その後の豪雨による災害は免れている。しかし、近年の線状降水帯による豪雨では、これまでの想定を超える降雨量の可能性やダムの治水能力の限界も考えられる。久住中学校は、火山活動による災害も予想される九重連山を背後に抱えている。また、平成28年4月の熊本地震では、久住町では家屋の損壊や避難生活等の被害が出た。

これらのことから、住民の安全確保や緊急時の連絡体制等、防災体制の整備や防災教育のより一層の充実が求められる地域である。





## 2 取組のポイント

本市の防災教育については、防災教育のねらいに基づき、防災教育コーディネーターが中心となり、地域の特性や実態を十分に踏まえた計画を立てたうえで、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等において、発達の段階に応じて計画的に進めている。そこで今年度は以下の事項に取り組んできた。






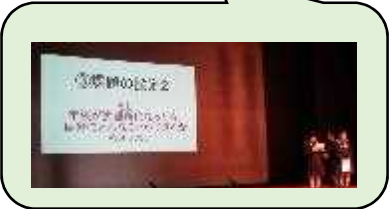
- ①教育活動全体を通じて、「主体的に行動する態度」を育成するために防災に関する関係機関が有する各種ツール等を活用した指導方法等に関する取り組み。
- ②学校待機及び引き渡し訓練や安否確認訓練等、学校の安全管理体制の構築についての取り組み。
- ③市内全小中学校の防災教育コーディネーターの防災教育や学校安全に関する研修会等への参加。
- ④大分県防災アドバイザーによる危機管理マニュアルや避難訓練等についての指導助言や、防災アドバイザーを講師とした防災講演会や出前講座・出前授業の実施。
- ⑤拠点校の取組を拠点校以外の小中学校の実践へと広げるために、公開研究発表会の開催。

⑦委託事業終了後も、拠点校では取組をさらに定着・深化させ、拠点校以外の学校では拠点校の取組を好事例として活用した実践。

### 3 具体的な取り組み

実施時期	実施事項		
	モデル地域：竹田市	モデル校：豊岡小学校	モデル校：久住中学校
5月			○5/20 教職員出前研修 ・防災教育について
6月	 	○6/10 避難訓練① ・水害による家庭引き渡し  ○6/10 教職員出前研修 ・安全マップづくり  ○6/23 水害体験講話①  ○6/30 避難訓練②不審者対応	○6/17 教職員出前研修 ・身につけてほしい防災の基本 ・県防災教育アドバイザー(上山先生)による
7月	○7/10 管理職研修 ・市教頭会出前研修 ・災害に対する危機管理について ・全小中学校教頭 17名参加  ○7/13 県推進委員会 ○7/14 第1回実践委員会 ・取組の方向性や実施内容の確認	○7/7 水害体験講話② ○7/15 提案授業① 5年 ・総合的な学習の時間「非常食はどのように作ったらいいか専門の方に聞いてみよう」※JAXA菊池さんからのアドバイス (zoomによる授業)  ○第1回実践委員会 ・豊岡小の実施計画を発表	  ○第1回実践委員会 ・久住中の実施計画を発表
8月	  ○8/21 市防災教育コ	○8/17 先進校・被災地の視察 ・九州北部豪雨被災地の日田市立有田小での現地研修 ・豊岡小教職員 4名参加  ○8/21 市防災教育コーディ	○8/19 教職員研修 ・防災教育年間指導計画の見直し  ○8/21 市防災教育コーディ

	<p>ーディネーター研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今求められる防災教育と安全マップづくり</li> <li>・全小中学校 25 名参加</li> </ul>	<p>ネーター研修参加</p>	<p>ネーター研修参加</p>
9 月		<p>○9/2 提案授業② 1・2 年生活科「町の安心安全の工夫にはどんなものがあるのか」</p>	<p>○9/17 県防災教育アドバイザー(上山先生)による教職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HUG(避難所運営疑似体験ゲーム)教職員研修</li> </ul>
10 月	 	<p>○10/1 避難訓練③起震車体験</p> <p>○市防災士会・大分地方気象台職員等防災関係者参画授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10/7 総合学習 3・4 年「防災マップ作り」</li> <li>・10/21 提案授業③ 3・4 年総合学習「防災マップを使って、水害が起こったときのことを考えよう」</li> <li>10/25 全校親子防災教室「マイタイムライン作成」</li> </ul>	<p>○10/11 防災教育指導案検討</p>
11 月	<p>○11/13 第 2 回推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の中間報告と検討</li> </ul> <p>○11/20 防災教育研究</p>	<p>○11/4 玉来ダム工事見学</p> <p>○11/6 避難訓練④火災</p>   <p>○11/20 防災教育研究発表会</p>	<p>○11/5 避難訓練 地震・火災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県安全安心支援課(井上副主幹)による出前授業 1 年「火山防災の達人になろう」</li> </ul> <p>○11/17 県防災教育アドバイザー(上山先生)による授業指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3 年 HUG(避難所運営疑似体験ゲーム)授業指導</li> </ul> <p>○11/20 防災教育研究発表会</p>

	<p>発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊岡小会場に市内外から教職員約80名参加</li> <li>・講演会 「竹田市の土地の成り立ちと自然災害」 講師：上山先生(県防災教育アドバイザー)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業④ 総合学習6年 「災害に強い町づくりに必要なことは何だろう」 →自分たちにできること・・・ 自助、共助、公助に気づくことができた</li> </ul>  <p>○11/26 TOS ホットハート大分収録</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業 総合学習3年 「もし学校が避難所になったら自分たちに何ができるか」 →避難所のスタッフ補助者としての役割だけでなく、安心させる笑顔や歌を歌う等避難者のメンタルケアをすることも考えることができた</li> </ul> 
12月		<p>○12/15 『いのちをつなぐ未来館』(岩手県釜石市) 見学 ・遠隔操作ロボット「7バナー」による見学・交流(3~6年)</p>	<p>○防災冊子「久住中学校区防災ブック」を3年部が作成し、お世話になった方々や、お年寄りへ配布予定</p>
1月		<p>○1/20 防災ワークショップ ・損保ジャパンの「防災ジャンダプロジェクト」 ・防災カードゲーム、害着せ替えゲーム、紙食器づくり体験</p>	<p>○文化祭や環境集会で、各学年部より発表</p> 
2月	<p>○2/1 第2回実践委員会 ・取組の報告と検証</p> <p>○2/12 第3回推進委員会 ・取組の報告と検証</p>	<p>○第1回実践委員会 ・取組の報告と検証</p> <p>○2/17 防災集会 ・6年の取組発表 ※3月実施予定の「ふるさと防災発表会」(保護者、地域の方々を招いて)は、新型コロナウイルス感染症予防の為中止に</p>	<p>○第1回実践委員会 ・取組の報告と検証</p>

## 4 取組における成果と課題

### (1) 成果

#### 〈成果〉

- モデル校では、防災教育コーディネーターを中心に防災教育を推進することによって、教職員・子ども・保護者の防災意識が向上した。特に、総合的な学習の時間や郷土学との関連で、探究的な学習により子どもたちが主体的で対話的な学びに向かっている姿が随所でうかがえた。また、防災教育の取り組みの成果として、子どもたちは天気予報から豪雨の水量を想像したり、稲葉川の水位がどのくらいまで上がってきているかなど、意識したりしてその後の行動を自分なりに考えようとする姿が見られるようになった。
- モデル校の公開研究発表会を実施することによって、モデル校の実践を市内全学校へ好事例として伝え、広げていくことができた。
- コロナ禍で取り組みのスタートは遅くはあったが、感染防止に配慮しながら可能な活動については、できる限り取り組むことができた。

### (2) 課題

- ・モデル校での実践を市内各学校の実践へとどのようにしたら繋げていくことができるかが、今後の課題である。
- ・コロナ禍で先進地視察研修や講師を招いた研修会、防災教育コーディネーター担当者会等の機会が限られたことは、今後の課題である。
- ・コロナ禍という状況下で、ICTを活用した授業や活動、研修が必要となってきた。環境整備等が課題である。

## 5 今後の取組の見通し

- 3学期にモデル校の全体計画や年間指導計画、指導案等研究の成果物を共有フォルダーに掲載し、市内各学校の教育課程編成の参考資料として活用していただく。特に、総合的な学習の時間や他教科、教育活動の中で、防災教育の内容が位置付けられるよう工夫をし時間の確保を図っていく。
- コロナ禍の状況が続きICT環境整備が進んでくると予想されるので、ICTを活用した授業や活動、研修のあり方について開発や研究が必要である。
- 第19回九州地区健康教育研究大会(沖縄大会 Web 開催)における第8分科会「安全管理・安全教育」で、久住中学校が今年度防災教育の取り組みを発表する予定である。